

# 九州北部豪雨災害からの復興



復旧工事が終了した災害現場（立野地区）

今年の夏は、日照時間が少なく、日本全国に大雨が降り、特に広島、京都、高知、北海道などで大きな災害が発生しました。私たちの村においても、今から2年前の平成24年7月12日未明から降り続いた「今まで経験したことのない豪雨」により、村内各所に大きな災害が発生し、2名の尊い命が奪われました。その後、これまでの2年間で懸命の復旧作業が行われ、今月をもってようやく復旧工事ほぼ完了の運びとなりました。この2年間で復旧した場所、がんばっている方を紹介します。また災害以降、「予防的避難」を実施するなど防災のあり方も変わりました。内容を紹介しますので、災害が心配されるときまずは生命身体の安全を心がけて、未然に行動するよう心がけてください。行政と村民の皆さんが協力して、「安心して暮らせる災害に強い村」づくりを進めましょう。

## 村民の皆さまへ

2年前の梅雨明けを間近に控えた7月12日、未明から降り続いた豪雨は、災害という大きな爪痕を村内各所に残しました。未明に立ち上げた災害対策本部で、夜明け前、情報が錯綜し被害状況がつかめず、明け方から続々と被害状況が報告されたこと、2名の尊い命を失い痛恨の念を感じたこと、旧立野小学校の避難生活が11日間にもおよび避難された方々がご苦労されたこと、消防団・広域消防・警察・自衛隊の方々の早朝から暗くなるまで、人命救助・給水活動など我が身を顧みず活動いただいたこと、多くの方々からお見舞い・義援金・物資の提供を受け、避難所における炊き出し、ボランティアの方々への復旧活動など沢山の方々に励まされたこと、今でも昨日のことのように脳裏に浮かびます。

村では、一日も早い復旧を念頭に、これまで公共土木災害、農業災害の復旧事業を進め、ようやく今月をもってほぼ完成の運びとなりました。ご協力いただいた関係各位にお礼を申し上げます。

現在の日本そして世界では異常気象が頻発しています。私たちはこの災害を教訓にして、今後の災害に備えなければなりません。村では、消防・防災の装備の充実や予防的避難の実施など、村民の皆さまの生命身体財産を守ることを最優先とした取り組みを行っています。今後とも村民の皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。

南阿蘇村長 長野 敏也

## 新 所 区

災害当時、家屋や道路は土石流により跡形もなくなった。今では以前のような道路や風景がよみがえったが、民家があった場所は更地となった。

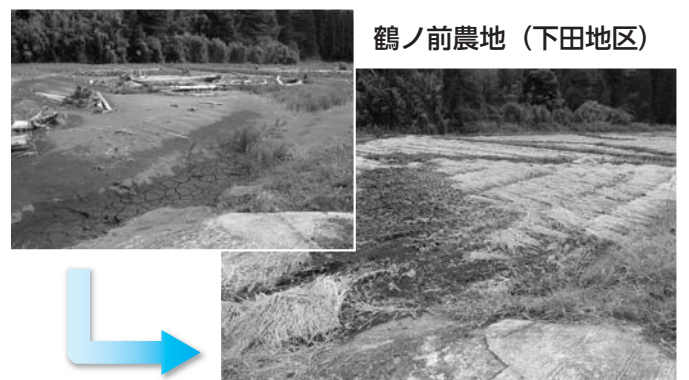


## 農地等災害復旧状況

本村が実施した復旧工事

(農地) 田の畦畔復旧、河川氾濫による田の土砂埋没復旧

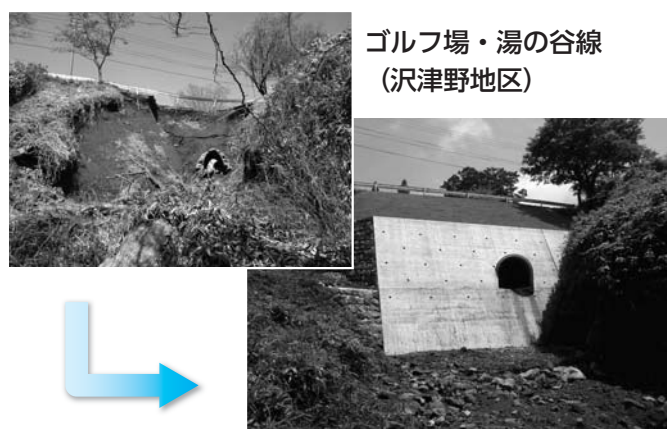
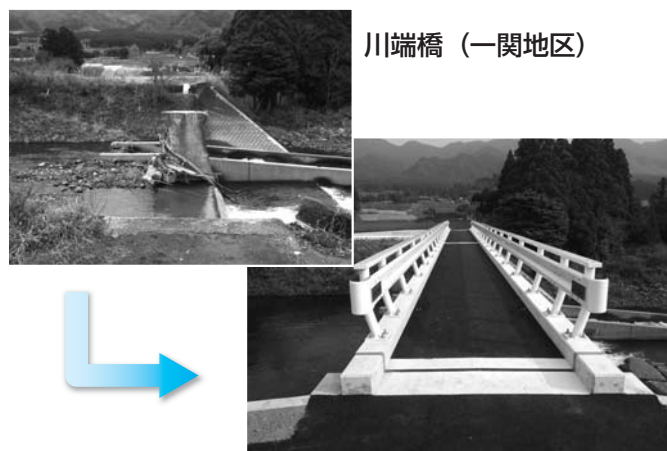
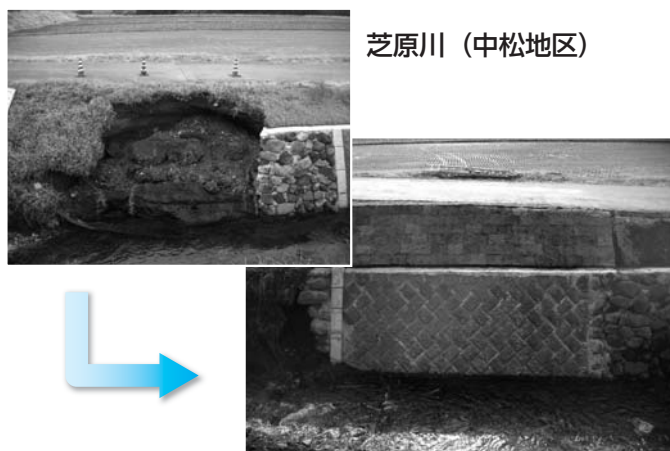
(農業用施設) 農業用水路、農道、揚水機、頭首工、水管橋、水路橋



## 公共土木施設災害復旧状況

本村が実施した復旧工事

道路12路線・河川施設12件・白川に架かる橋梁3件 合計27件



## 予防的避難の実施について

平成24年7月12日未明に降った大雨は、これまでに経験したことのない集中豪雨となって村を襲い、新所区では2名の尊い命が失われました。

真夜中の短時間の集中豪雨においては、暗闇のなかに住民が避難行動をとることはかえって危険を伴うこともあり、夜中に災害を伴うような気象状況が予想される場合には、夕方の明るいうちからの避難を呼びかける予防的避難を村も実施しています。

熊本地方気象台の予報を根拠とし、1時間雨量80ミリ以上、1時間雨量70ミリ以上かつ24時間雨量250ミリ以上、台風接近が予想されるときに予防的避難の実施を行います。それ以外に少しでも危険が予想される場合には、命を守ることを最優先するという考えのもと避難所を開設、防災行政無線などで避難を呼びかけています。

※予防的避難所については下記のとおりです。

- 両併小学校体育館
  - 白水体育館
  - 久木野総合福祉センター(社協)
  - 長陽中央公民館
  - 下野公民館
  - (旧)立野小学校
- (平成26年9月1日現在)

※現在避難所については、利用者の意見などをもとに、利便性と安全性を考慮し、見直し検討を行っています。

〈問い合わせ〉 役場 総務課 防災消防係 TEL (67) 1111

## いろいろな方が集まれる場所に

九州北部豪雨で被災した元立野区在住のキザキ・アキトさんと、真理子さんご夫妻。3カ月前に新築したばかりの店舗兼住宅が全壊。避難所、村営住宅生活を経て、現在、阿蘇白川駅内の喫茶店と、隣接する家屋で雑貨店を営まれています。

災害から2年余り。改めて平成24年7月12日の災害と、今後の思いを真理子さんに話していただきました。

### 【災害時】

2階に寝泊りしていました。いつもは店の開店準備のため朝6時に起き、1階に下りるところでしたが、すごい土砂降りでお客さんも来ないだろうと思い、1階には下りませんでした。このことが幸いでした。1階に下りていたらつぶれていたことでしょうか。

隣接する実家の両親も、同居していた私たちが家を新築したことで、私たちが寝泊りしていた部屋（1階谷側）に移動していました。元々、寝室に使っていた仏壇の部屋（山側）には木が6本突き刺さっていたので、このことも不幸中の幸いでした。

広島の災害も同じですが、土砂災害時には2階にいるこ

と、なるべく寝室は山側でなく谷側にするこの大切さを、改めて感じました。



倒壊したキザキさんの自宅

### 【避難生活】

わずか2週間の避難所生活でも大変であったことから、今回の広島の災害は人ごとではありませんでした。住宅についても、私たちは村営住宅にすぐ入居できましたが、広島では市営住宅の入居は抽選

のため、入れない人もいるだろうし、避難生活も長くなっているから、その苦勞がうかがえます。

### 【生活再建】

店舗兼住宅を新築したばかりだったので、商売の蓄積がなく、このため災害による融資も受けられず、保険も火災保険にしか加入していなかったことから、倒壊した家屋の返済が必死で、店を建て直すまでは進めませんでした。

村営住宅に入居後、勤め始めましたが、そのまま勤め仕事につくことに、どうも抵抗がありました。災害のため荷物の整理もできていない状況に、気持ちが落ち込んで前向きになれませんでした。

そのような中、災害を受けた家の倉庫にアンティークの商品が残っていました。その時は気づきませんでした。今思えばこのアンティーク商品が残っていたことで元気を取り戻すことできたと思います。そして、阿蘇白川駅近くに空き家を見つけたことができてさらに元気になりました。

両親は別の場所での再建を検討しましたが、高齢のうえ新たな地域での生活は大変と考え、元の場所に家を新築しました。しかし、復旧工事が終わった今でも、雨が降るとやはり怖いと言っています。両親が高齢であったため、アメリカから実家（立野）に帰ってきましたが結局、離れることになってしまいました。

今は、ホームヘルパーの資格を持っていたことから、村社会福祉協議会に1年半ほどお世話になっています。午前中は社協に、午後からは駅内の喫茶店を開いています。土・日曜日は朝から営業していますが、お客さんは多くありません。でも、旅行者の方がたまに訪れることもあるので、誰もいないと困るだろうし、店を開けているといろいろな方が訪ねてくれるので開けています。



当時を振り返りながら笑顔で語られるキザキ・アキトさん（右）、真理子さん（左）ご夫妻

### 【改めて、災害を思う】

元の生活に戻りたいと思いますが、元と同じような生活はできて、絶対元の生活には戻れません。いずれにしても、元気で頑張るしかありません。後ろを振り返るタイプでないから、落ち込んでばかりはいられません。前に進むしかありません。

私たち自身、災害時にいろいろな方にお世話になりました。具体的な方法はわかりませんが、この店がいろんな方が集まれる場所になればと思っています。